

新規実施項目のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
 この度、新たな検査項目の受託開始について、下記の通りご案内いたします。
 健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。
 謹白

記

■ 実施日 2021年4月12日(月) ご依頼分より

■ 新規項目内容一覧

項目コード	検査項目 JLAC10	検体量 (mL)	容器	保存 (安定性)	所要 日数	実施料 判断料	検査 方法	基準値 (単位)	備考
X703 5	甲状腺刺激ホルモン (TSH) [CLEIA] IFCC 4A056-0000-023-052	血清 0.5	S09 ↓ A00 (X)	冷蔵 (21日)	2~4	104 ※5	CLEIA	0.61~4.23 (μIU/mL)	次ページ 以降参照
X419 3	遊離トリヨードサイロニン (Free T3) [CLEIA] 4B015-0000-023-052					127 ※5		2.52~4.06 (pg/mL)	
X497 2	遊離サイロキシン (Free T4) [CLEIA] 4B035-0000-023-052					127 ※5		0.75~1.45 (ng/dL)	
X408 1	トリヨードサイロニン (T3) [CLEIA] 4B010-0000-023-052					102 ※5		0.62~1.16 (ng/mL)	
X496 5	サイロキシン (T4) [CLEIA] 4B030-0000-023-052	血清 0.8	冷蔵 (21日)	2~4	111 ※5	CLEIA	4.53~8.38 (μg/dL)		
X702 8	TSHレセプター抗体 [CLEIA] 5G310-0000-023-052				226 ※6		2.0未満 (IU/L)		
X580 0	抗甲状腺ペルオキシダーゼ 抗体 (抗TPO抗体) [CLEIA] 5G285-0000-023-052				146 ※6		3.3未満 (IU/mL)		
X590 5	抗サイログロブリン抗体 [CLEIA] 5G290-0000-023-052				144 ※6		19.3未満 (IU/mL)		
X701 1	サイログロブリン [CLEIA] 4B040-0000-023-052	血清 0.5	冷蔵 (23日)	冷蔵 (23日)	133 ※5	CLEIA	35.1以下 (ng/mL)		

※5：生化学的検査(Ⅱ)判断料
 ※6：免疫学的検査判断料

上記検査の受託開始に伴い、現在の実施項目「0701 3：甲状腺刺激ホルモン(TSH)」、「0628 1：遊離トリヨードサイロニン(Free T3)」、「0119 5：遊離サイロキシン(Free T4)」、「0016 0：トリヨードサイロニン(T3)」、「0017 7：サイロキシン(T4)」、「6286 6：TSHレセプター抗体(第3世代)」、「2319 6：抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体(抗TPO抗体)」、「0557 7：抗サイログロブリン抗体」、「2586 0：サイログロブリン」は2021年9月30日(木)ご依頼分をもって受託中止いたします。



● 甲状腺刺激ホルモン (TSH) [CLEIA] IFCC

血中TSHの測定は、甲状腺機能を把握する上で有用です。健常人の血中TSHは、年齢、性別による差異はなく、食事、運動による変化もありません。一方、各種疾患では原発性甲状腺機能亢進症、甲状腺中毒症では明らかな低値、原発性甲状腺機能低下症では明らかな高値、単純性甲状腺腫では健常人よりやや高値となります。

このたび日本臨床検査医学会標準化委員会より、TSH値の標準化として、ハーモナイゼーション対応方針が発出され、これにより各試薬メーカー間での測定値差が解消されることになりました。

▼検査要項

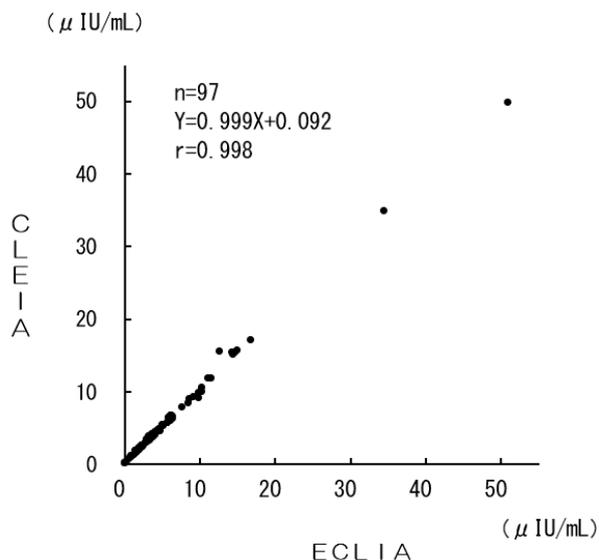
検査項目名	甲状腺刺激ホルモン (TSH) [CLEIA] IFCC
項目コード	X703 5
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	0.61~4.23 (μ IU/mL)
報告範囲 (単位)	0.01未満、0.01~199、200以上 (μ IU/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	104点 (「D008」内分泌学的検査「9」)
判断料	144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)
備考	

●参考文献

北川 巨, 他: 医学と薬学 78 (1) : 59~70, 2021. (検査方法参考文献)

伊藤 裕司, 他: 日本臨床 57 (増4) : 52~54, 1999. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● 遊離トリヨードサイロニン (Free T3) [CLEIA]

Free T3の測定は、甲状腺機能状態のみでなく、種々の疾病におけるサイロキシン (T4) の末梢代謝状態を知る一指標としても有用です。特に妊婦や肝・腎疾患等におけるサイロキシン結合蛋白 (TBP) の濃度変化による影響を受ける事なく、甲状腺機能を直接的に反映します。

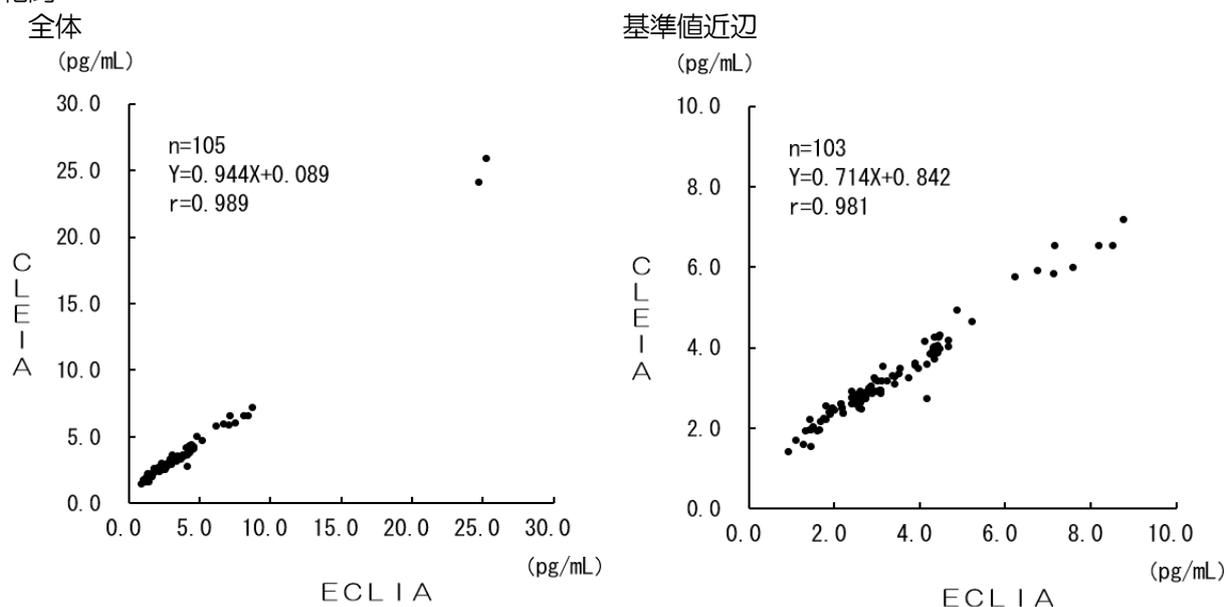
▼検査要項

検査項目名	遊離トリヨードサイロニン (Free T3) [CLEIA]
項目コード	X4193
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	2.52~4.06 (pg/mL)
報告範囲 (単位)	0.67未満、0.67~29.9、30.0以上 (pg/mL)
桁数	有効3桁、整数2桁、小数2桁
検査実施料	127点 (「D008」内分泌学的検査「15」)
判断料	144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)
備考	

●参考文献

矢野 美沙紀, 他: 医学と薬学 77 (5) : 793~804, 2020. (検査方法参考文献)
 乾 武広, 他: 臨床検査 34 (11) : 1531~1536, 1990. (臨床的意義参考文献)

●相関



● 遊離サイロキシン (Free T4) [CLEIA]

甲状腺ホルモンであるサイロキシン (T4) 量は、甲状腺機能亢進症では増加、機能低下症では減少します。また、甲状腺機能の異常以外でも妊娠、経口避妊薬の内服、先天性TBG増加症などによりサイロキシン結合蛋白 (TBP) の量が増加しているときに増加し、逆にネフローゼ症候群、強度の肝疾患、先天性TBG減少症などでTBPが減少しているときに減少します。一方、血中のFree T4量 (Total T4量のおよそ0.05%) は、TBPの濃度変化には依存せず、甲状腺機能を直接的に反映します。よって、血中 Free T4量の測定は、甲状腺機能診断の有用な指標となります。

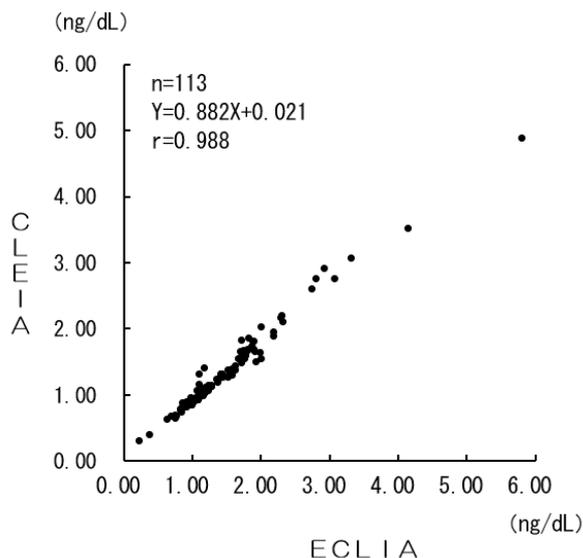
▼検査要項

検査項目名	遊離サイロキシン (Free T4) [CLEIA]
項目コード	X497 2
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	0.75~1.45 (ng/dL)
報告範囲 (単位)	0.10未満、0.10~9.99、10.0以上 (ng/dL)
桁数	有効3桁、整数2桁、小数2桁
検査実施料	127点 (「D008」内分泌学的検査「15」)
判断料	144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)
備考	

●参考文献

矢野 美沙紀, 他: 医学と薬学 77 (5) : 793~804, 2020. (検査方法参考文献)
 乾 武広, 他: 臨床検査 34 (11) : 1531~1536, 1990. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● トリヨードサイロニン (T3) [CLEIA]

トリヨードサイロニン (T3) は、サイロキシシン (T4) に比べて速効性で作用効果も大きく、生理的に重要な物質です。特に、T3 thyrotoxicosisとよばれる甲状腺機能亢進状態では、T4濃度 (Total T4、Free T4)、TBGは正常値を示しますが、T3濃度は高値を示します。また、血中T3濃度の測定は、甲状腺機能亢進症およびその再発の早期発見、甲状腺機能亢進症の治療経過観察の指標となり、甲状腺機能の診断に有用です。

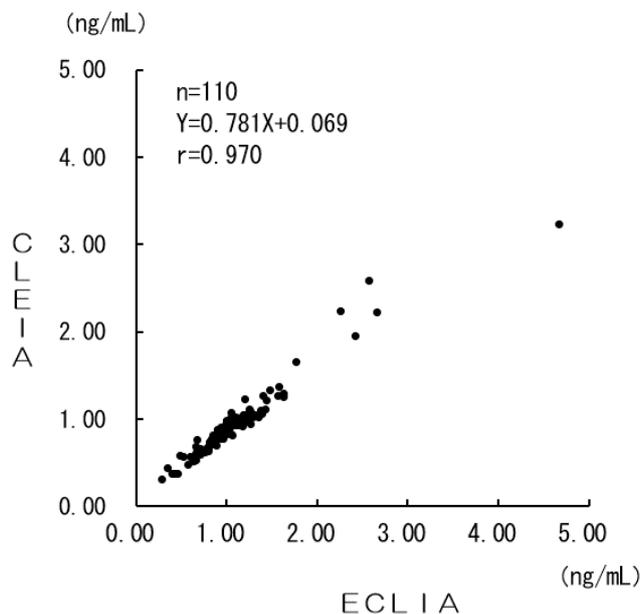
▼検査要項

検査項目名	トリヨードサイロニン (T3) [CLEIA]
項目コード	X408 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	0.62~1.16 (ng/mL)
報告範囲 (単位)	0.20未満、0.20~99900000 (ng/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	102点 (「D008」内分泌学的検査「8」)
判断料	144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)
備考	

●参考文献

池田 斉：臨床検査 38 (11) : 102~103, 1994. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● サイロキシン (T4) [CLEIA]

サイロキシン (T4) は、甲状腺でトリヨードサイロニン (T3) とともに合成され、血中では大部分が蛋白質と結合した結合型で存在し、ごく少量が遊離型として存在します。血中のT4は末梢組織で代謝され、遊離型T4のみがホルモン作用を発揮します。従って、甲状腺機能検査として遊離T4量を測定することが望ましいのですが、結合型と遊離型は動的平衡状態にあるため、結合型を測定することによっても血中のT4濃度を評価することができます。

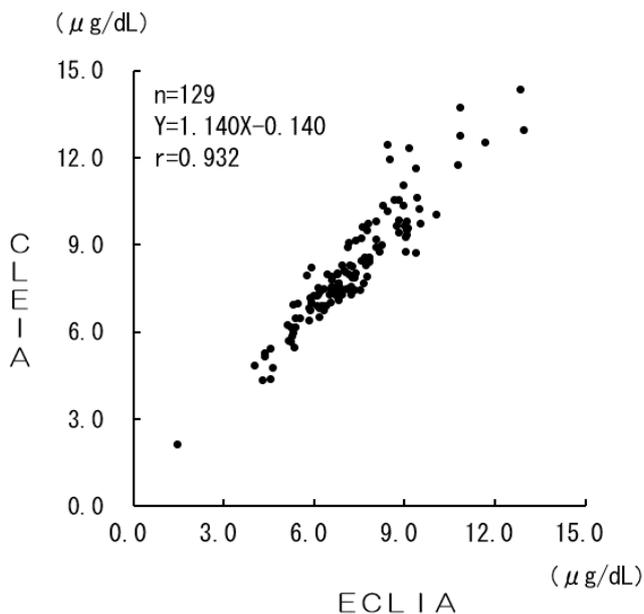
▼検査要項

検査項目名	サイロキシン (T4) [CLEIA]
項目コード	X496 5
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	4.53~8.38 ($\mu\text{g/dL}$)
報告範囲 (単位)	0.50未満、0.50~99900000 ($\mu\text{g/dL}$)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	111点 (「D008」内分泌学的検査「12」)
判断料	144点 (生化学的検査 (Ⅱ) 判断料)
備考	

●参考文献

女屋 敏正：臨床検査 38 (11) : 99~101, 1994. (臨床的意義参考文献)

●相関



● TSHレセプター抗体〔CLEIA〕

甲状腺の濾胞上皮細胞膜に存在する甲状腺刺激ホルモン（Thyroid stimulating hormone：TSH）の受容体に対する自己抗体であるTSHレセプター抗体（TSH receptor antibody：TRAb）は、TSHレセプターと結合することにより甲状腺ホルモンの合成を促進し、バセドウ病における甲状腺機能亢進症の発症要因となります。

TSHレセプター抗体の測定は、甲状腺機能亢進症におけるバセドウ病の鑑別診断に有用です。

▼検査要項

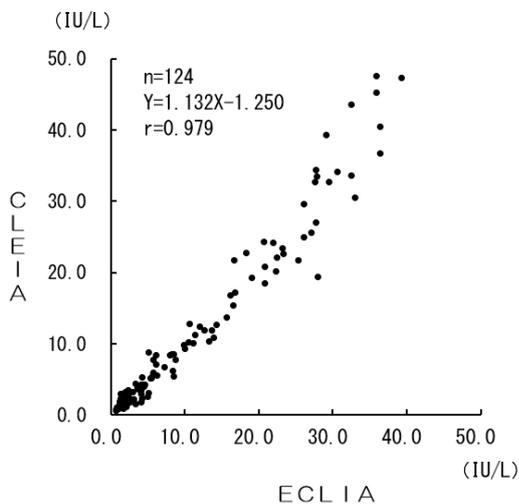
検査項目名	TSHレセプター抗体〔CLEIA〕
項目コード	X702 8
検体量	血清 0.8 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2～4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	2.0未満 (IU/L)
報告範囲 (単位)	0.5未満, 0.5～49.9, 50.0以上 (IU/L)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	226点 (「D014」自己抗体検査「26」)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	TSHレセプターのTSH結合部位を認識するM22抗体(抗TSHレセプターモノクローナル抗体 (ヒト)) を用いた第3世代TRAbです。

●参考文献

矢野 美沙紀, 他: 医学と薬学 77 (5) : 793～804, 2020. (検査方法参考文献)

古田島 伸雄, 他: 日本臨床検査自動化学会誌 39 (1) : 39～43, 2014. (臨床的意義参考文献)

●相関



(カットオフ値による一致表: 単位 IU/L)

		ECLIA		計
		2.0≤	<2.0	
CLEIA	2.0≤	86	2	88
	<2.0	11	25	36
計		97	27	124

2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。

● 抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）〔CLEIA〕

自己免疫性甲状腺疾患であるバセドウ病や橋本病の患者血清中に多く存在する抗マイクロゾーム抗体は、甲状腺マイクロゾーム分画の甲状腺ペルオキシダーゼ（TPO：thyroid peroxidase）に対する抗体であることがわかり、抗TPO抗体と称するようになりました。

抗TPO抗体は、甲状腺細胞に対する細胞障害作用を有し、自己免疫性甲状腺疾患が疑われる場合に測定されます。

甲状腺組織の崩壊に伴う腫大（甲状腺腫）がみられ、抗TPO抗体陽性の場合は、バセドウ病や橋本病を考慮する必要があり、またこれらの疾患の治療経過観察にも有用であると評価されています。

▼検査要項

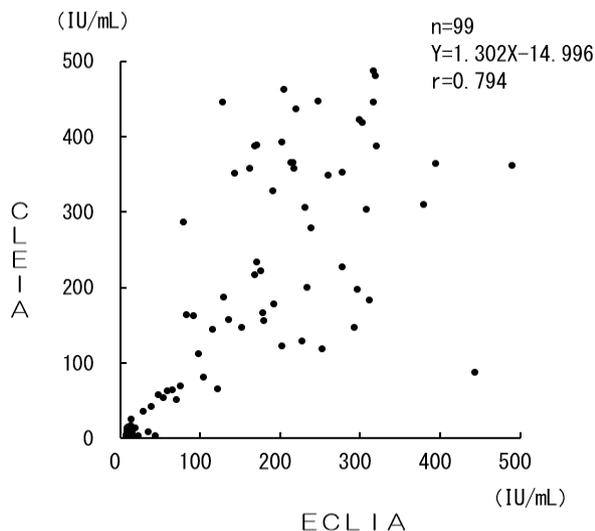
検査項目名	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）〔CLEIA〕
項目コード	X580 0
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値（単位）	3.3未満 (IU/mL)
報告範囲（単位）	1.0未満、1.0~99900000 (IU/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	146点 (「D014」自己抗体検査「11」)
判断料	144点（免疫学的検査判断料）
備考	

●参考文献

矢野 美沙紀, 他：医学と薬学 77 (5) : 793~804, 2020. (検査方法参考文献)

戸井田 晋, 他：ホルモンと臨床 43 (11) : 1107~1115, 1995. (臨床的意義参考文献)

●相関



(カットオフ値による一致表：単位 IU/mL)

		ECLIA		計
		16≧	<16	
CLEIA	3.3≧	63	13	76
	<3.3	3	20	23
計		66	33	99

● 抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕

甲状腺疾患では、各種の甲状腺特有抗原と反応する臓器特異性の自己抗体が検出されることがあります。抗サイログロブリン抗体は、甲状腺濾胞内コロイド成分であるサイログロブリンと反応する自己抗体です。免疫グロブリンクラスのIgG抗体が主ですが、IgA、IgM抗体も認められます。

特に、免疫性甲状腺疾患である橋本病患者において本抗体の陽性率が高く、抗体価は広く分布します。バセドウ病患者においても本抗体は陽性を示しますが、抗体価は橋本病に比べて低い場合が多いです。よって、抗サイログロブリン抗体の測定は、自己免疫性甲状腺疾患の診断および鑑別に有用です。

▼検査要項

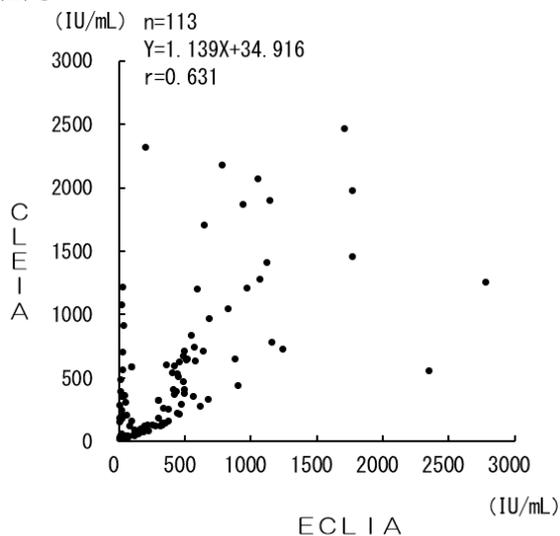
検査項目名	抗サイログロブリン抗体〔CLEIA〕
項目コード	X590 5
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値 (単位)	19.3未満 (IU/mL)
報告範囲 (単位)	10.0未満、10.0~99900000 (IU/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数1桁
検査実施料	144点 (「D014」自己抗体検査「10」)
判断料	144点 (免疫学的検査判断料)
備考	

●参考文献

矢野 美沙紀, 他: 医学と薬学 77 (5) : 793~804, 2020. (検査方法参考文献)

戸井田 晋, 他: ホルモンと臨床 43 (11) : 1107~1115, 1995. (臨床的意義参考文献)

●相関



(カットオフ値による一致表: 単位 IU/mL)

		ECLIA		計
		28≤	<28	
CLEIA	19.3≤	94	12	106
	<19.3	2	38	40
計		96	50	146

● サイログロブリン〔CLEIA〕

サイログロブリン(Tg)は、甲状腺濾胞細胞のみで合成される分子量66万の糖蛋白です。Tgは、甲状腺ホルモンの貯蔵型として甲状腺濾胞腔内で貯えられ、TSHの刺激により、ペルオキシダーゼ作用でT3やT4の合成が行われます。よって、Tgは臓器特異性が高く、さまざまな甲状腺疾患のマーカーとなります。特に、甲状腺濾胞からの漏出状況の指標となり、甲状腺分化癌の手術後評価、および術後の再発・転移マーカーとして使用されます。また、バセドウ病での治療の効果、寛解の指標、先天性甲状腺機能低下症の病型決定などにも有用です。画像診断との組合せにより、結節性甲状腺腫の術前診断や良性の甲状腺疾患と悪性腫瘍とを鑑別する可能性も示唆されています。

▼検査要項

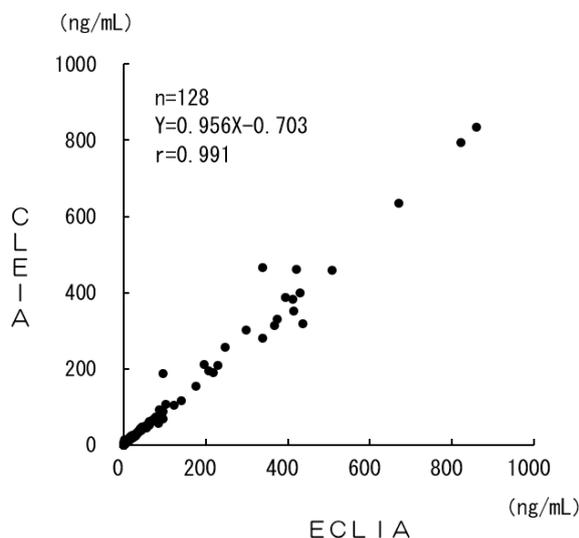
検査項目名	サイログロブリン〔CLEIA〕
項目コード	X701 1
検体量	血清 0.5 mL
容器	S09→A00 (X) ポリスピッツ
保存方法	冷蔵保存してください
所要日数	2~4 日
検査方法	CLEIA
基準値(単位)	35.1以下 (ng/mL)
報告範囲(単位)	0.06未満、0.06~99900000 (ng/mL)
桁数	有効3桁、整数8桁、小数2桁
検査実施料	133点 (「D008」内分泌学的検査「17」)
判断料	144点(生化学的検査(Ⅱ)判断料)
備考	

●参考文献

北村 由之, 他: 医学と薬学 77 (12) : 1683~1690, 2020. (検査方法参考文献)

武田 京子: ホルモンと臨床 59 (6) : 517~523, 2011. (臨床的意義参考文献)

●相関



2021年4月1日発行分より報告範囲および桁数の情報を追記してご案内いたします。